



## えきなん音楽だより、創刊♪

## 音楽を読む

## 『蜜蜂と遠雷』 恩田陸

「世界に満ちている音楽」を感じて(スタッフ・N)



『蜜蜂と遠雷』 恩田陸

出版社:幻冬舎  
請求記号:913.6/オ  
駅南図書館所蔵あり

——耳を澄ませば、こんなにも世界は音楽に満ちている。(本文P.505)

ピアノコンクールを舞台に、コンテスタントの群像劇を描いた『蜜蜂と遠雷』。「音楽を文字で聴く」という稀有な体験ができる、音楽への愛に溢れた作品です。〈音楽はそこら中において、それをどこかで聴きとって譜面にしている〉〈創り出したんじゃない、伝えているだけだ〉と語られる場面を読んで、旋律になった「世界に満ちた音楽」に触れてみたくなり、ヘッドフォンに手を伸ばしました。

そっと目を閉じてその心地よい音の波に身を委ねると、自然と心に美しい情景が浮かんできます。きっとこれは、音に宿る命の気配を受け取ったわたしの心に、譜面になる前の「世界に満ちている音楽」が再現されているものなんだろうな……なんて、読み終えた本を手にしてピアノの音色に浸りながら、いつもより優雅なひとときを過ごすわたしなのでした。

※ナクソス・ミュージック・ライブラリーでは、著者の恩田陸さん監修の『蜜蜂と遠雷』プレイリストがお楽しみいただけます

ナクソスに  
ログインして  
アクセス!

・第一次予選: <https://ml.naxos.jp/playlist/naxos/565622>  
・第二次予選: <https://ml.naxos.jp/playlist/naxos/565623>  
・第三次予選: <https://ml.naxos.jp/playlist/naxos/565624>  
・ファイナル: <https://ml.naxos.jp/playlist/naxos/565625>

## 交響曲第6番「田園」 ベートーヴェン

宮沢賢治も愛した自然への愛に溢れた曲(スタッフ・O)

## クラシックにふれよう

新緑の季節となり、外に出て自然を感じてリラックスしたいところですが、まだまだコロナ禍のこの頃。家に居ながらにして自然を感じられる音楽をご紹介します。自然を愛したベートーヴェンが田園地帯ハイリゲンシュタットの地で過ごした日々から生まれた交響曲第6番「田園」です。

作品は全5楽章で構成され、それぞれの楽章には標題が付されています。第1楽章「田舎に着いたときの愉快的感情の目覚め」は交響曲第5番と同じく導入部なしに始まります。1つの動機の強調、展開部の大きな広がり等、曲の印象は異なりますが、2つの交響曲には意外にも多くの共通点がみられます。第2楽章「小川のほとりの情景」ではのどかな情景に木管楽器による3種類の鳥の鳴き声が聴こえ(何の鳥の声でしょう。)、第3楽章「農夫たちの楽しい集い」のユーモラスなスケルツォを経て第4楽章「雷雨、嵐」へ一気になだれ込みます。やがて嵐はやみ、晴れた空に響くフルートで始まる第5楽章「牧歌。嵐の後の喜ばしい感謝の気持ち」で穏やかにフィナーレとなります。

自宅にいながら田舎の森の中にいるようなリラックスした時間を過ごしてみませんか。

ナクソスに  
ログインして  
アクセス!

「ベートーヴェン 田園」で検索すると、684件もの演奏が見つかります！ひとつひとつじっくり聴いてみると、同じ譜面でもこうも雰囲気が変わるのかと驚かされます。ぜひ自分のお好みの一曲を探してみてくださいね。



## 音楽とわたし

学生時代にドイツ思想史の参考文献として  
読んだ岩波新書(スタッフ・M)

学生時代にドイツ思想史の参考文献として岩波新書『フルトヴェングラー』(脇 圭平・芦津丈夫 岩波書店 V762.3/7 駅南図書館所蔵あり)を読んだ際、丸山真男さんの言葉がどうしたことか、気に掛かった。今読むと何てことのない言葉だ。

「ブラームスの「四番」の最初のHの音ね、あれはフルトヴェングラーしか出せない音です。もう驚くべきものです。」そのHの音を「スウッと吸い込まれるように」出すのだという。

「スウッと吸い込まれるよう」な音って、どういうことだ。クラシック音楽などあまり興味のない身でありながら、気になって仕方がない。近所のCDショップに探しに行った。フルトヴェングラー盤なんか当然ない。「四番」が聞いてみたくて、ショルティのシカゴ響を買い、聞いた。全然スウッと吸い込まれないぞ！カラヤン、バーム、アバド、小澤……いや、違う……。幻のHの音に取り憑かれていた。

さすがに飽きてきた頃にカルロス・クライバーのウィーンフィル盤に出会った。最初のHの音にスウッと吸い込まれた。これかっ！最終楽章まで心地よく身を委ねた。フルトヴェングラーのベルリンフィル盤に出会ったのは随分と後。そこでもHの音に吸い込まれた。

出だしの一音の聞き比べからはじまった、私のクラシック音楽との馴れ初めの話である。

## 編集担当のひとこと

ナクソス・ミュージック・ライブラリーのID貸出サービスの開始に合わせて、「えきなん音楽だより」を発行することになりました。季刊誌として、5月・8月・11月・2月に発行する予定です。皆さまにクラシックを身近に感じていただければ幸いです(貸出サービスもぜひご利用くださいね♪)それでは次回もお楽しみに！(N)